

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2年 3月 14日

事業所名 多機能型事業所ふおるて

回答数 8

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境 ・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	0	活動内容とスペースを考慮している。	今後も継続する。
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0	活動内容に合わせた対応人数を考慮している。	今後も適切な人員配置を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	5	0	建物の構造上段差はある。安全対策を日々とり対応している。	民家という制限はあるが、可能な限り対応したい。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	2	0	業務のマニュアルやフローを作成している。	今後も継続する。職員全員が集まる機会も増やす。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2	0	貴重なご意見として、日々の業務改善、ニーズへ対応を心掛けている。	今後も継続する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	0	ホームページで公表し、改善につなげている。	今後も継続する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	2	関係機関職員、見学を通して意見を頂いている。	第三者委員会はないが、日々外部の方と交流し、意見を取り入れる。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	0	研修希望があれば基本は事業所が参加費等を負担し受けやすい環境を作っている。	今後も継続する。心理職など、内部の専門職員との事例検討なども継続して実施する。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0	状況に合わせて作成している。	今後も継続する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	1	発達検査等を用いている。	今後も継続する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	1	複数名での立案を行っている。	今後も継続する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	2	0	月、週ごとにテーマを決め、活動内容を変えている。	今後も継続する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2	1	時期、季節、時間に合わせて活動内容を変えている。	今後も継続する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	0	一人一人に合わせた支援方法を計画している。	今後も継続する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	0	打ち合わせを必ず行っている。	今後も継続する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	0	終了後に打ち合わせを行っている。	今後も継続する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0	記録をし、日々振り返るようにしている。	今後も継続する。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0	定期的なモニタリングを行っている。	今後も継続する。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	1	0	適切に行っている。	今後も継続する。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	0	児童発達支援管理責任者および支援員が参加している。	今後も継続する。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6	1	1	適宜学校、もしくは相談支援事業所を通して行う。	今後も継続する。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	該当なし					
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	2	2	必要に応じて行っている。	今後も継続する。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	これまでに該当なし					
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	2	連絡会等で情報交換、事例検討会を行っている。	今後も継続する。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	6	交流機会は現時点では作られていない。	実際には難しいが、どのようにすれば可能か検討する。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8	0	0	毎回参加している。	今後も継続する。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0	保護者との話をこまめにしている。	今後も継続する。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2	1	開催予定を組み、周知した。	今後も継続する。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	0	個別に時間を設け、説明を行っている。	今後も継続する。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	0	いつでも相談できる雰囲気づくりと周知を心掛けている。	今後も継続する。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	5	父母の会、保護者会などは実施していない。	事業所の規模を鑑みると父母の会、保護者会は難しいが、要望があれば可能な限り応えていきたい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	苦情はないが、意見箱の設置など、いつでも意見を頂ける環境を作っている。	今後も継続する。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	2	会報等は作成していない。	ホームページで活動報告をする。	
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0	十分に注意している。	今後も継続する。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	十分に配慮している。	今後も継続する。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	5	規模を考えると行事を行うことは難しい。	こちらから参加するなど、可能な限り地域との交流をはかりたい。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	0	マニュアル類の作成、定期的な訓練を実施している。	今後も継続する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	定期的な訓練を実施している。	今後も継続する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	外部講師を招いて研修を行った。	今後も継続する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	2	当事業所ではどのような場合においても身体拘束は行っていない。	身体拘束は行わないが、どのような場合において通常は行うのか職員間での共通理解をはかる。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	0	指示書あるいは保護者からの指示に基づいて対応している。	今後も継続する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0	過去の報告書を職員が見て今後には生かしていけるようにしている。	今後も継続する。